

私たちの町の遺跡 二本木遺跡

■「肥後の都 二本木遺跡」

2011.6月号掲載

新幹線開業で連日にぎわいを見せるJR熊本駅ですが、この二本木から春日の一带は奈良時代から江戸時代初めまでの1000年近くもの間、熊本で最も栄え、政治・文化・経済の中心地だった区域です。ここ数年、駅周辺の二本木遺跡では発掘調査が続き、重要な発見が相次いでいます。KAB社屋地では、奈良時代の巨大な建物が見つかりました。奈良の平城宮大極殿や長屋王邸のような規模で、地方では例がありません。東側には大きな役所建物も見つかり、国府(肥後国の役所)か郡家(飽田郡の役所)か議論になりました。合同庁舎地・駅前広場など坪井川右岸では、奈良・平安時代の住居が多数見つかりました。民衆の集落のようですが、貴重な品物がたくさん出土しています。駅東の「熊本森都心」では、たいへん立派な鎌倉時代の石組み井戸(写真1)が注目されました。城下町の外ですが、江戸時代初期の大きな庭園も見つかりました。駅西の区画整理地では、鎌倉時代の中国陶磁器(写真2)など、貴重品が大量に見つかっています。

どの調査区でも、千年近くにわたる栄華が積み重なった「肥後国の中心地」らしい「県内初」「県内最大」の発掘成果が得られています。二本木遺跡の出土品は、蓮台寺5丁目の熊本市埋蔵文化財資料室(322-4390)に展示しています。熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 網田龍生氏より



← 石組み井戸の調査風景

中国産磁器出土状態

